

家庭・学校・地域における「子育て」コミュニティの再生に関する実践研究④

——数量化Ⅲ類による育児に関係するお困りごとと解決リソースの関係の分析——

Practical Studies on the Revitalization of “Child-growth” Community in Families, Schools and Local Communities : IV

——Analysis of the Copings to Parents’ Child-care Problems——

泊 真児*, 加藤美智子*, 田中 優*, 西河 正行*, 深津千賀子*,
福島 哲夫*, 古田 雅明*, 向井 敦子*, 八城 薫*

Shinji TOMARI, Michiko KATO, Masashi TANAKA, Masayuki NISHIKAWA, Chikako FUKATSU,
Tetsuo FUKUSHIMA, Masaaki FURUTA, Atsuko MUKAI, Kaoru YASHIRO

<キーワード>

育児, 子育ての問題, 問題解決リソース, 数量化Ⅲ類

<要 約>

本研究は、家庭・学校・地域における「子育て」コミュニティの再生に関する一連の研究の第4報である。本研究では、大妻女子大学が東京都下のT市の子育てコミュニティにいたる地域貢献が可能かを探るべく、その出発点として、子育て中の父母の育児におけるお困りごとと問題解決リソースの関係を明らかにすることを目的とする。

保育園に子どもが通園中あるいは入園を希望している東京都下のT市民441世帯を対象に、子育てや子育てに関係する問題と、その問題解決のための対人的・情動的リソースについて調査を行った。そして、年齢層や学歴等の属性変数と育児感情や育児規範等の心理変数を絡めて、父母別に数量化Ⅲ類による構造分析を行った。その結果、父親は親子共に低年齢層であるほど子どもの病気や怪我、経済的問題を1番の困りごとと感じているが、パートナーや友人、親・きょうだいへの相談の程度が高く、そうした対人的な問題解決リソースへの信頼度が高いゆえに、育児における否定的感情が少ないことが示唆された。逆に、高年齢層ほど問題解決のための対人的リソースの信頼度・相談度が低く、感情統制不全感等の否定的感情が高い傾向が示唆された。

一方の母親では、育児経験がなく子どもの育て方をお困りごとと感じている親ほど本・雑誌等の書籍類やネットの利用度が高いこと、また、子どもの病気や怪我をお困りごとと感じ

ていても問題解決リソースとしてのパートナーに信頼度・相談度が高い母親ほど、育児幸福感が高いことが示唆された。さらに、高年齢層で育児経験がある母親ほど育児において困りごとと感じる事柄が少なく、それゆえか問題解決のための対人的・情動的リソースの利用度も低いことが示唆された。

(本研究は、「家庭・学校・地域における「子育て」コミュニティの再生に関する実践研究」のテーマで、大妻女子大学人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトによる平成20年度、21年度の研究助成を受けている。)

1. 問題

人口減少社会へと突入したわが国において、少子化対策は喫緊の課題となっている。厚生行政においては、平成11年12月に「新エンゼルプラン」と称される少子化対策の具体的実施計画が策定され、保育サービスや子育て支援サービスの拡充、仕事と育児の両立のための雇用環境整備などの他に、地域で子どもを育てる環境の整備が推進されてきている。その背景として、家族構成や社会状況の変化が指摘できる。

国立社会保障・人口問題研究所(2008)の行った全国推計のデータによると、一般世帯の平均世帯人員は、2005年の2.56人から2030年には2.27人まで減少を続けると試算されている⁽¹⁾。すなわち、子育て期の世帯構成として核家族が基本単位となることが明白であり、子育てに直接関与するのが父親や母親に限定されてしまう事態が想定される。また、生活環境の都市化による地域コミュニティの脆弱化と相俟って、子どもを抱える親たちの育児が孤立化しつつあり、育児に対する不安やストレス等の否定的感情を持つ母親が増加傾向にあることが指摘されている(厚生労働省, 2003)⁽²⁾。

世帯構成や地域コミュニティのこうした変化は、子どもの育ちや育て方を直接体験することなく親になる世代を出現させている。そしてそれは、単に育児文化の衰退を招くに留まらず、子育て期の親たちが子どもの育ちや育て方に不安や疑問、戸惑い等、様々な問題を抱かせることに繋がると考えられる。

では、子育て期の親たちは育児に関して困った

事態や問題を抱えたとき、それらの問題にどのように対処するのであろうか。育児上の問題が生じた際の問題解決リソースの利用に関して、いくつかの研究がみられる。石野(2005)は、有職母親が子どもに対して抱く罪障感(申し訳なさ、心苦しさ)と問題解決リソースの関係を検討している⁽³⁾。具体的には、仕事を持っていることで家事や育児が手抜きになり申し訳ないと感じている(罪障感が高い)母親ほど育児情報や育児の相談相手をよく利用していること、就学前児を持つ母親ほど問題解決のために情動的リソースや専門家の相談を利用する傾向があることが報告されている。ここから、就学前の幼い子どもを持つ母親は、子育てや子育ての悩み・不安・問題等に対処するために、より専門的な知識や情報を取り入れるべく対人的・情動的な問題解決リソースを活用していることが示唆される。

また小林(2004)⁽⁴⁾は、問題解決リソースの中でも、特にインターネットの利用が育児ストレスの緩和に及ぼす効果について、保育園児を持つ母親162名を対象に検討を行っている。その結果、ネット利用は育児ストレス緩和に対して直接的な効果を示さないものの、育児不安が高い母親や消極的な性格の母親の場合にはストレス緩和効果が高いことを報告している。この知見から小林(2004)は、特に対人的な交流が苦手な母親に対しては、ウェブサイトによる情報提供と電子メールによる相談システムの構築が有用となる可能性を示唆している。

さらに松本(2008)は、子育てにおける育児雑誌や育児書等の育児情報の役割を検討している⁽⁵⁾。具体的には、東京都内の子育て期の親328名を対

象に育児書等の育児情報の利用状況を調査した結果、育児書を読んだ者は84.5%おり、子どもの病気や怪我の対応、世話の仕方、発達の目安の順で、育児書を必要としていることが示されている。しかしながら、育児書を読んで安心した者は全体の約56%であり、かえって不安になった母親がいることも報告されている。また、育児情報が「とても役立った」「役立った」と回答した者の比率は、育児雑誌・育児書・テレビ・新聞が4~5割程度を占めるのに対し、ネット・ビデオ・パンフレットは、いずれも2割未満であることが示されている。さらに、育児に関する相談は夫、父母、友人で全体の9割を占めており、相談相手が役立った割合は友人、父母、夫がほぼ8割を示したことが報告されている。これらの知見はすなわち、育児に関して何らかの心配事が生じた際には、育児書等の情報リソースが活用されるが、それらが役立った割合は必ずしも高いとは言えず、むしろ夫や親、友人などの身近な対人的リソースの活用度や役立ち度が高いことを示唆していると言える。

以上の知見から、世帯構成の変化や地域コミュニティの機能低下に伴って、育児において困りごとを抱えがちな親たちが多数存在していることが推察される。そこで本研究では、そうした育児期の親たちが子育てや子育てに関わる問題を抱えたときに、一体どのような対人的・情報リソースを活用しているのかについて、親たちの属性や育児に対する認知や感情を絡めて分析することを目的とする。本研究を通して、筆者らは、家庭、学校、地域における「子育て」が抱える問題を実態調査により明らかにし、地域における「子育て」コミュニティの再生プログラムの開発と実施を目指している。それは、子どもを育てるという問題に対して、従来の研究の多くに見られる家庭、学校、地域のそれぞれの養育者の「子育て」という視点ではなく、子どもを中心とした「子育て」という観点から、子どもが育つ人的・物的・社会的環境づくりに焦点を当てた「子育て」コミュニティの再生が必要であると考えためである(古田・加藤・田中・泊・西河・深津・福島・向井・

八城, 印刷中⁽⁶⁾)。

以上の目的を果たすために、東京都下のT市内の保育園に子どもが通園中あるいは入園を希望している父母を対象に、子育てや子育てに関わる問題と、その問題解決のための対人的・情報リソースの関係構造を、数量化Ⅲ類を用いて明らかにする。

2. 方法

本稿では分析内容に関係する事柄を中心に述べ、方法の詳細については、古田ほか(印刷中⁽⁶⁾)の一連研究の第1報にゆずる。

調査時期：平成20年11月から平成21年1月

調査対象：東京都下のT市内の3保育園に子どもを通わせる父母、および、子どもの保育園入園を希望する父母の計441世帯。

調査方法：研究者が直接、あるいは、保育園を通じて調査票を配布し、郵送または保育園に設置した回収箱により回収した。謝礼は、回答者のみに、商品券(1,000円)と調査報告書(速報)を郵送した。

調査内容：1)子育てに関係する問題(お困りごと)：次のaからhまでの8つの選択肢(a.子どもの病気・怪我, b.子どもの育ち(発育), c.子どもの育て方, d.お父さんの祖父母とあなたとの関係, e.ママ友などの対人関係, f.自分の心身の問題, g.夫婦間の問題, h.子育てに関係する経済的問題)の中から当てはまるもの全てを多重選択させた。2)お困りごとの問題性の程度：1)で選択させたお困りごとについて、問題の大きさの程度順に上位3つまで記入を求めた。3)問題(お困りごと)の解決方法：問題解決のためのリソースとして相談する人物や参考にする情報源について、次のaからfの選択肢(a.パートナー, b.親・きょうだい, c.友人・ママ友, d.専門家(医者, 保健師, 先生等), e.本・雑誌・新聞等, f.インターネットや携帯サイト)の中から当てはまるものを一つ選択させた。4)問題解決のリソースに対する信頼度：3)で選択させたリソースに対する信頼度を「1：あまり信頼していない」,

「2：少しは信頼している」、「3：かなり信頼している」、「4：非常に信頼している」までの4件法で評定を求めた。5)気軽に子どもを預けられる相手の有無：預けられる相手がいるかどうかについて、「いる」か「いない」のいずれかを選択させた。6)育児に関する問題(お困りごと)内容別にみた解決リソースの利用度：3)と同様のリソースを育児の問題解決のために、どの程度相談しないし利用するかについて4件法で測定した。人的リソースへの相談度については(1：ほとんど相談しない, 2：あまり相談しない, 3：たまに相談する, 4：よく相談する)の4件法とし、情報的リソースの利用度については(1：ほとんど利用しない, 2：あまり利用しない, 3：たまに利用する, 4：よく利用する)の4件法で評定を求めた。7)育児感情および育児規範について：古田ほか(印刷中)に示されている育児感情や育児に関する規範意識を測定する37項目を4件法(1：そう思わない, 2：どちらかといえばそう思わない, 3：どちらかといえばそう思う, 4：そう思う)で測定した。上記の他、デモグラフィック要因(年齢, 性別, 家族構成, 学歴, 就労状況)と子どもの数と子どもの年齢, および通園状況について尋ねた。

3. 結果

(1) 回収データおよび有効データについて

調査票の回収率は36.7% (162世帯/293名：父親129名, 母親163名, 性別不明1名)であった。回答者の平均年齢は35.3歳(父親35.9歳±5.8, 母親34.8歳±4.6)であった。本報告では、有効票の内、性別の判明している290名分のデータを父親データと母親データに二分し、数量化Ⅲ類によってそれぞれ解析した結果を報告する。

父親データ129名分の内、数量化Ⅲ類の解析に使用する変数に欠損値が見られるサンプルを除外し、最終的に91名のデータを使用した。同様にして、母親データ163名から欠損値が見られるサンプルを除いた123名分のデータを、最終的な有効データとして解析に使用した。

(2) 育児に関わる問題の内容とその解決リソースに関する諸要因の基礎データ

Table 1は、父親データにおける育児に関わる問題(お困りごと)の内容と、その問題解決のための対人的・情報的リソース、そして、父親のデモグラフィック属性や心理状況に関する基礎データを示したものである。Table 2は、母親データに関して、父親データと同様に変数群ごとの整理を行ったものである。

Table 1より、父親データの特徴を端的に述べると、年齢層は30代が67%と最も多く、大卒以上の学歴を持つ者が約59%で、約87%が全日就労であった。これまでに育児経験が無い者、従って本調査の回答時に想定した対象児が初めての子どもである者が約55%であり、気軽に子どもを預けられる相手がいると答えた者が約71%であった。心理変数に関して言えば、自己疎外感(約79%)、奉仕的育児規範はやや高かった(約60%)。育児に関わるお困りごととしては、子どもの病気・怪我(約70%)、子どもの育て方(約57%)の2つのみが全体の半数を超える該当率を示していた。そして、育児のお困りごと解決に関わるリソースとしては、パートナーが最も役立つ存在であると認識しており(約74%)、パートナーへの相談度も高く(約62%)、問題解決リソースへの信頼度も高い者(約51%)が多かった。

続いてTable 2より、母親データの特徴を端的に述べると、年齢層は30代が約72%と最も多く、大卒以上の学歴を持つ者が約46%と最多で、約63%が全日就労であった。これまでに育児経験が無い者が約53%であり、約89%が核家族世帯で、気軽に子どもを預けられる相手がいると答えた者が約67%であった。心理変数に関しては、4種類の育児感情を感じている者の比率が相対的に高く、感情統制不全感(約62%)が、育児不安感(約58%)が、自己疎外感(約54%)が、育児幸福感(約56%)が高群に該当していた。育児規範に関しては、親責任規範(約59%)、奉仕的育児規範も高かった(約63%)。パートナーとの関係認知については、不良と認知している群が

Table1 育児に関係するお困りごとの内容とその解決リソースに関わる諸要因の基礎データとカテゴリースコア (父親: N=91)

アイテム-カテゴリー	人数	第1軸	第2軸	第3軸
1. 属性変数群				
1-1 父親の年齢層: 20代	12	-2.10080	-0.16212	1.93323
1-2 父親の年齢層: 30代	61	-0.08699	0.07913	-1.10188
1-3 父親の年齢層: 40代以上	18	1.68820	-0.11045	2.47571
2-1 父親の学歴: 中・高卒	14	1.83967	0.19946	1.70421
2-2 父親の学歴: 各種学校・短大卒	23	0.97824	-0.06005	1.72920
2-3 父親の学歴: 大卒以上	54	-0.89599	-0.00960	-1.16822
3-1 父親の就労状況: 全日就労	79	-0.34329	-0.21859	-0.55299
3-2 父親の就労状況: パート・その他就労	12	2.24927	1.51348	3.68605
4-1 父親の育児経験: 無し	50	-1.45051	0.69653	-0.48783
4-2 父親の育児経験: 1人	30	1.66252	-0.40440	0.86182
4-3 父親の育児経験: 2人以上	11	2.04741	-1.98193	-0.08332
5-1 対象児の年齢層: 1歳児未満	14	-2.62927	1.76644	-0.48104
5-2 対象児の年齢層: 2歳児未満	13	-2.16952	1.54251	2.35499
5-3 対象児の年齢層: 3歳児未満	13	-0.90445	-1.44396	-1.43583
5-4 対象児の年齢層: 4歳児未満	16	0.52827	-1.91052	0.49770
5-5 対象児の年齢層: 5歳児未満	12	1.99465	1.75943	-2.40818
5-6 対象児の年齢層: 6歳児未満	15	2.22445	-1.21989	-0.13008
5-7 対象児の年齢層: 6歳児以上	8	1.36098	0.32944	2.27727
6-1 気軽に子どもを預けられる相手: 無し群	26	0.43770	1.14946	1.38368
6-2 気軽に子どもを預けられる相手: 有り群	65	-0.17706	-0.44604	-0.54506
2. 心理変数群				
7-1 感情統制不全感: 低群	59	-0.94225	-0.31308	0.70432
7-2 感情統制不全感: 高群	32	1.73326	0.60516	-1.28150
8-1 育児不安感: 低群	47	-0.76517	-1.33522	0.89502
8-2 育児不安感: 高群	44	0.81441	1.44656	-0.94362
9-1 自己疎外感: 低群	72	-0.16284	-0.52195	-0.23035
9-2 自己疎外感: 高群	19	0.61029	2.02492	0.90166
10-1 育児幸福感: 低群	55	1.20482	-0.44709	-0.36941
10-2 育児幸福感: 高群	36	-1.84428	0.70786	0.57956
11-1 親責任規範: 低群	41	-0.70539	-0.89158	0.44012
11-2 親責任規範: 高群	50	0.57585	0.74896	-0.34996
12-1 奉仕的育児規範: 低群	36	0.36449	-2.02883	0.38724
12-2 奉仕的育児規範: 高群	55	-0.24091	1.34420	-0.24353
13-1 パートナーとの関係認知: 不良群	49	1.06219	0.00807	-0.15646
13-2 パートナーとの関係認知: 良好群	42	-1.24228	0.01184	0.19555
3. 育児に関係するお困りごとの内容変数群				
14-1 子どもの病気・怪我が育児のお困りごと: 該当無し群	27	2.18166	-0.02304	-1.14680
14-2 子どもの病気・怪我が育児のお困りごと: 該当有り群	64	-0.92240	0.02367	0.49235
15-1 子どもの育ちが育児のお困りごと: 該当無し群	63	-0.06507	-1.24300	0.18866
15-2 子どもの育ちが育児のお困りごと: 該当有り群	28	0.14181	2.82865	-0.40495
16-1 子どもの育て方が育児のお困りごと: 該当無し群	39	0.07526	-0.82053	2.43966
16-2 子どもの育て方が育児のお困りごと: 該当有り群	52	-0.05892	0.63257	-1.81924
17-1 夫婦間の問題が育児のお困りごと: 該当無し群	82	-0.13225	-0.02183	-0.19676
17-2 夫婦間の問題が育児のお困りごと: 該当有り群	9	1.19070	0.29816	1.85346
18-1 自分の心身の問題が育児のお困りごと: 該当無し群	80	-0.21156	0.24933	0.14081
18-2 自分の心身の問題が育児のお困りごと: 該当有り群	11	1.52693	-1.73214	-0.97437
19-1 子育ての経済的問題が育児のお困りごと: 該当無し群	57	0.06660	-0.25365	-0.38615
19-2 子育ての経済的問題が育児のお困りごと: 該当有り群	34	-0.11543	0.45150	0.66345
20-1 育児における1番のお困りごと: 子どもの病気・怪我群	37	-1.18963	-0.14999	0.47098
20-2 育児における1番のお困りごと: 子どもの育ち群	10	1.73096	3.37765	-0.43504
20-3 育児における1番のお困りごと: 子どもの育て方群	25	0.71136	0.06002	-2.80957
20-4 育児における1番のお困りごと: 子育ての経済的問題群	11	-0.92073	-0.55936	2.67582
20-5 育児における1番のお困りごと: 心身・人間関係の問題群	8	2.36525	-2.83515	3.53451
4. 育児のお困りごと解決に関わるリソース変数群				
21-1 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: パートナー	67	-0.12547	-0.48744	-0.71282
21-2 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: 親・きょうだい	8	-2.16548	-1.75395	2.67267
21-3 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: 友人・メディア	8	3.71511	2.44646	1.25072
22-1 育児の問題解決リソースの信頼度: 低群	12	2.83376	0.58616	2.56188
22-2 育児の問題解決リソースの信頼度: 中群	33	0.56980	0.40400	-0.35988
22-3 育児の問題解決リソースの信頼度: 高群	46	-1.15081	-0.42332	-0.39826
23-1 育児の問題解決リソースとしての書籍類利用度: 低群	57	0.01350	-1.45014	-0.01796
23-2 育児の問題解決リソースとしての書籍類利用度: 高群	34	-0.02642	2.45739	0.04618
24-1 育児の問題解決リソースとしての親・きょうだいへの相談度: 低群	48	0.95764	0.02512	0.13184
24-2 育児の問題解決リソースとしての親・きょうだいへの相談度: 高群	43	-1.07198	-0.00727	-0.13446
25-1 育児の問題解決リソースとしてのパパ友相談度: 低群	71	0.33714	0.17050	0.63248
25-2 育児の問題解決リソースとしてのパパ友相談度: 高群	20	-1.20327	-0.56060	-2.21796
26-1 育児の問題解決リソースとしての専門家相談度: 低群	68	0.44391	-0.72494	-0.60095
26-2 育児の問題解決リソースとしての専門家相談度: 高群	23	-1.31801	2.18215	1.80049
27-1 育児の問題解決リソースとしてのネット利用度: 低群	55	0.38181	-1.54932	-0.60558
27-2 育児の問題解決リソースとしてのネット利用度: 高群	36	-0.58689	2.39182	0.94038
28-1 育児の問題解決リソースとしてのパートナーへの相談度: 低群	35	1.98111	0.41236	-0.07323
28-2 育児の問題解決リソースとしてのパートナーへの相談度: 高群	56	-1.24049	-0.24178	0.05553

Table2 育児に関係するお困りごとの内容とその解決リソースに関わる諸要因の基礎データとカテゴリースコア (母親: N=123)

アイテム-カテゴリー	人数	第1軸	第2軸	第3軸
1. 属性変数群				
1-1 母親の年齢層: 20代	14	-1.83350	-2.63711	-1.12454
1-2 母親の年齢層: 30代	88	-0.11985	-0.21938	0.59419
1-3 母親の年齢層: 40代以上	21	1.73741	2.68108	-1.75962
2-1 母親の学歴: 中・高卒	11	0.45584	0.74851	1.89063
2-2 母親の学歴: 各種学校卒	34	1.16039	0.54233	-0.00132
2-3 母親の学歴: 短大卒	22	0.88343	0.54790	-0.24561
2-4 母親の学歴: 大卒以上	56	-1.13631	-0.69016	-0.28135
3-1 母親の就労状況: 全日就労	78	-1.09896	0.03435	-0.30724
3-2 母親の就労状況: パート就労	30	1.73744	-0.37482	1.36948
3-3 母親の就労状況: その他就労	15	2.25767	0.57618	-1.16848
4-1 母親の育児経験: 無し	65	-0.78093	-1.43945	-1.14809
4-2 母親の育児経験: 1人	43	0.61664	0.92245	1.99427
4-3 母親の育児経験: 2人以上	15	1.63433	3.59841	-0.76898
5-1 世帯構成: 核家族	110	-0.22941	-0.16973	-0.09392
5-2 世帯構成: 核家族以外	13	1.96190	1.44218	0.76339
6-1 対象児の年齢層: 1歳児未満	17	-2.16232	-3.58404	-0.46523
6-2 対象児の年齢層: 2歳児未満	16	-3.19725	-1.27984	-1.37797
6-3 対象児の年齢層: 3歳児未満	13	0.50646	0.53522	-3.14592
6-4 対象児の年齢層: 4歳児未満	19	0.56421	-0.50042	2.67780
6-5 対象児の年齢層: 5歳児未満	22	0.70672	0.43518	1.77662
6-6 対象児の年齢層: 6歳児未満	23	0.74858	3.00252	-1.48547
6-7 対象児の年齢層: 6歳児以上	13	2.93205	0.41846	1.12524
7-1 気軽に子どもを預けられる相手: 無し群	41	0.10456	-0.30348	-1.92244
7-2 気軽に子どもを預けられる相手: 有り群	82	-0.04899	0.15268	0.95626
2. 心理変数群				
8-1 感情統制不全感: 低群	47	-1.95920	0.53981	-0.28914
8-2 感情統制不全感: 高群	76	1.21516	-0.33281	0.17345
9-1 育児不安感: 低群	52	-1.72304	1.48483	-1.03116
9-2 育児不安感: 高群	71	1.26574	-1.08639	0.74948
10-1 自己疎外感: 低群	56	-0.17962	1.67240	-0.01724
10-2 自己疎外感: 高群	67	0.90639	-1.39667	0.00833
11-1 育児幸福感: 低群	54	1.63794	-0.44774	0.87346
11-2 育児幸福感: 高群	69	-1.27796	0.35153	-0.68948
12-1 親責任規範: 低群	51	-0.99495	0.96591	-0.04238
12-2 親責任規範: 高群	72	0.70850	-0.68311	0.02436
13-1 奉仕的育児規範: 低群	46	0.66022	1.36339	-1.38859
13-2 奉仕的育児規範: 高群	77	-0.39091	-0.81348	0.82426
14-1 パートナーとの関係認知: 不良群	68	1.12972	-0.39867	-0.65635
14-2 パートナーとの関係認知: 良好群	55	-1.39184	0.49431	0.80409
3. 育児に関係するお困りごとの内容変数群				
15-1 子どもの病気・怪我が育児のお困りごと: 該当無し群	33	1.63648	-0.31763	-1.17679
15-2 子どもの病気・怪我が育児のお困りごと: 該当有り群	90	-0.59705	0.11733	0.42697
16-1 子どもの育ちが育児のお困りごと: 該当無し群	79	-0.29878	0.57404	-0.68397
16-2 子どもの育ちが育児のお困りごと: 該当有り群	44	0.54257	-1.02889	1.21878
17-1 子どもの育て方が育児のお困りごと: 該当無し群	38	0.09694	1.28224	-1.94917
17-2 子どもの育て方が育児のお困りごと: 該当有り群	85	-0.04017	-0.57232	0.86660
18-1 ママ友等の対人関係が育児のお困りごと: 該当無し群	106	-0.24608	0.36855	0.45904
18-2 ママ友等の対人関係が育児のお困りごと: 該当有り群	17	1.55023	-2.29343	-2.88621
19-1 自分の心身の問題が育児のお困りごと: 該当無し群	85	-0.27890	0.77766	0.96010
19-2 自分の心身の問題が育児のお困りごと: 該当有り群	38	0.63095	-1.73747	-2.15830
20-1 子育ての経済的問題が育児のお困りごと: 該当無し群	70	-0.19194	0.82295	0.44186
20-2 子育ての経済的問題が育児のお困りごと: 該当有り群	53	0.25859	-1.08545	-0.59127
21-1 育児における1番のお困りごと: 子どもの病気・怪我群	42	-1.98351	1.64623	-0.43083
21-2 育児における1番のお困りごと: 子どもの育ち群	13	0.83191	-0.46487	1.20585
21-3 育児における1番のお困りごと: 子どもの育て方群	45	0.81193	-0.45621	1.65795
21-4 育児における1番のお困りごと: 子育ての経済的問題群	8	1.03632	-0.51713	-2.90557
21-5 育児における1番のお困りごと: 自分の心身の問題群	11	1.87657	-3.69909	-3.71476
4. 育児のお困りごと解決に関わるリソース変数群				
22-1 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: パートナー	63	-0.61348	0.76263	0.14482
22-2 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: 親・きょうだい	22	0.36139	-1.85068	0.95640
22-3 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: 友人やママ友	18	0.56173	-1.03916	-2.26948
22-4 育児のお困りごと解決に最も役立つリソース: 専門家	18	1.06700	0.62666	0.81818
23-1 育児の問題解決リソースの信頼度: 低群	22	0.97887	-0.77693	-1.65077
23-2 育児の問題解決リソースの信頼度: 中群	61	-0.02985	-0.42534	0.45363
23-3 育児の問題解決リソースの信頼度: 高群	40	-0.48611	1.07790	0.20596
24-1 育児の問題解決リソースとしての書籍類利用度: 低群	51	1.22353	1.23139	0.65175
24-2 育児の問題解決リソースとしての書籍類利用度: 高群	72	-0.86292	-0.87116	-0.46731
25-1 育児の問題解決リソースとしての親・きょうだいへの相談度: 低群	42	0.57108	1.94740	-1.79255
25-2 育児の問題解決リソースとしての親・きょうだいへの相談度: 高群	81	-0.29278	-1.00881	0.92444
26-1 育児の問題解決リソースとしてのママ友相談度: 低群	32	1.12323	0.08587	-0.50733
26-2 育児の問題解決リソースとしてのママ友相談度: 高群	91	-0.39202	-0.02934	0.17393
27-1 育児の問題解決リソースとしての専門家相談度: 低群	39	0.85436	0.02257	-1.92307
27-2 育児の問題解決リソースとしての専門家相談度: 高群	84	-0.39346	-0.00956	0.88801
28-1 育児の問題解決リソースとしてのネット利用度: 低群	58	1.07148	1.30664	0.75357
28-2 育児の問題解決リソースとしてのネット利用度: 高群	65	-0.95194	-1.16473	-0.67868
29-1 育児の問題解決リソースとしてのパートナーへの相談度: 低群	42	2.29837	0.57780	-1.08826
29-2 育児の問題解決リソースとしてのパートナーへの相談度: 高群	81	-1.18842	-0.29864	0.55926

やや多かった(約55%)。育児に関わるお困りごととしては、子どもの病気・怪我(約73%)、子どもの育て方(約69%)の2つのみが全体の半数を超える該当率を示していた。ただ、父親に比べて自分の心身の問題(約31%)や経済的問題(約43%)をお困りごとに挙げている者の比率が高かった。そして、育児のお困りごとと解決に関わるリソースとしては、パートナーが最も役立つ存在であると認識しており(約51%)、パートナーへの相談度も高かった(約66%)が、問題解決リソースへの信頼度は中程度(約50%)が多かった。父親データに比べ問題解決のための対人的・情動的リソースの利用度が高い者が多く、ママ友相談度(約74%)、専門家相談度(約68%)、親・きょうだいへの相談度(約66%)、書籍類利用度(約59%)、ネット利用度(約53%)となっていた。

(3) 数量化Ⅲ類による育児に関わる問題の内容と問題解決リソースの関係の整理

父親データに関しては、Table1に示す4側面のアイテム・カテゴリーデータを数量化Ⅲ類を用いて解析した。解析対象とした要因は、1)育児に関わるお困りごとの内容、2)問題解決リソース、3)年齢層・学歴等の属性変数、4)育児感情や育児規範などの心理変数、28項目69カテゴリーである。分析に使用した具体的な項目は、1)年齢層、学歴、就労状況、育児経験、対象児の年齢層、気軽に子どもを預けられる相手の有無、2)感情統制不全感の高低、育児不安感の高低、自己疎外感の高低、育児幸福感の高低、親責任規範の高低、奉仕的育児規範の高低、パートナーとの関係認知の良悪、3)育児のお困りごと：子どもの病気・怪我、育児のお困りごと：子どもの育ち、育児のお困りごと：子どもの育て方、育児のお困りごと：夫婦間の問題、育児のお困りごと：自分の心身の問題、育児のお困りごと：子育てに関わる経済的問題、育児における1番のお困りごと、4)お困りごとと解決に最も役立つリソース、問題解決リソースの信頼度、問題解決リソースとしての書籍類利用度、問題解決リソースとしての親・きょうだいへの相談度、問題解決リソースとしてのパ

パ友相談度、問題解決リソースとしての専門家相談度、問題解決リソースとしてのネット利用度、問題解決リソースとしてのパートナーへの相談度である。なお、アイテム・カテゴリーデータの度数分布に極端な偏り(全データ数の内の5%以下のサンプル数)が見られた2項目(世帯構成、育児のお困りごと：パパ友等の対人関係)については、分析項目から除外した。

解析の結果、第Ⅰ軸の固有値は0.13、第Ⅱ軸の固有値は0.11であった。Fig.1は育児のお困りごとの内容と問題解決リソースに関する要因カテゴリーの関係を図示したものである。これより、第Ⅰ軸についてカテゴリー布置の様子を負荷量の大きい順に見ていくと、正方向には「解決リソース：友人」、「リソース信頼度低群」、「1番のお困りごと：心身・人間関係の問題」、「子どもの病気・怪我：非お困り群」、「パートナーへの相談度低群」が布置され、負方向には「解決リソース：親・きょうだい」、「育児幸福感高群」、「リソース信頼度高群」、「パートナーへの相談度高群」、「専門家相談度高群」、「1番のお困りごと：子どもの病気・怪我」が布置された。

第Ⅱ軸をみると、正方向には「1番のお困りごと：子どもの育ち」、「子どもの育ち：お困り群」、「解決リソース：友人」、「書籍類利用度高群」、「ネット利用度高群」、「専門家相談度高群」が布置され、負方向には「1番のお困りごと：心身・人間関係の問題」、「奉仕的育児規範低群」、「心身の問題：お困り群」、「解決リソース：親・きょうだい」、「書籍類利用度低群」、「ネット利用度低群」、「育児不安感低群」が布置された。

母親データに関しても、父親データと同様の数量化Ⅲ類による解析を行った。解析に用いたアイテム・カテゴリーデータとカテゴリースコアをTable2に示した。解析対象とした要因は父親データと同様の4側面、29項目74カテゴリーである。分析に使用した具体的な項目は、父親データの解析に用いた項目に1)世帯構成と3)育児のお困りごと：ママ友等の対人関係を加えたものである。なお、アイテム・カテゴリーデータの度数分布に極端な偏り(全データ数の内の5%以下

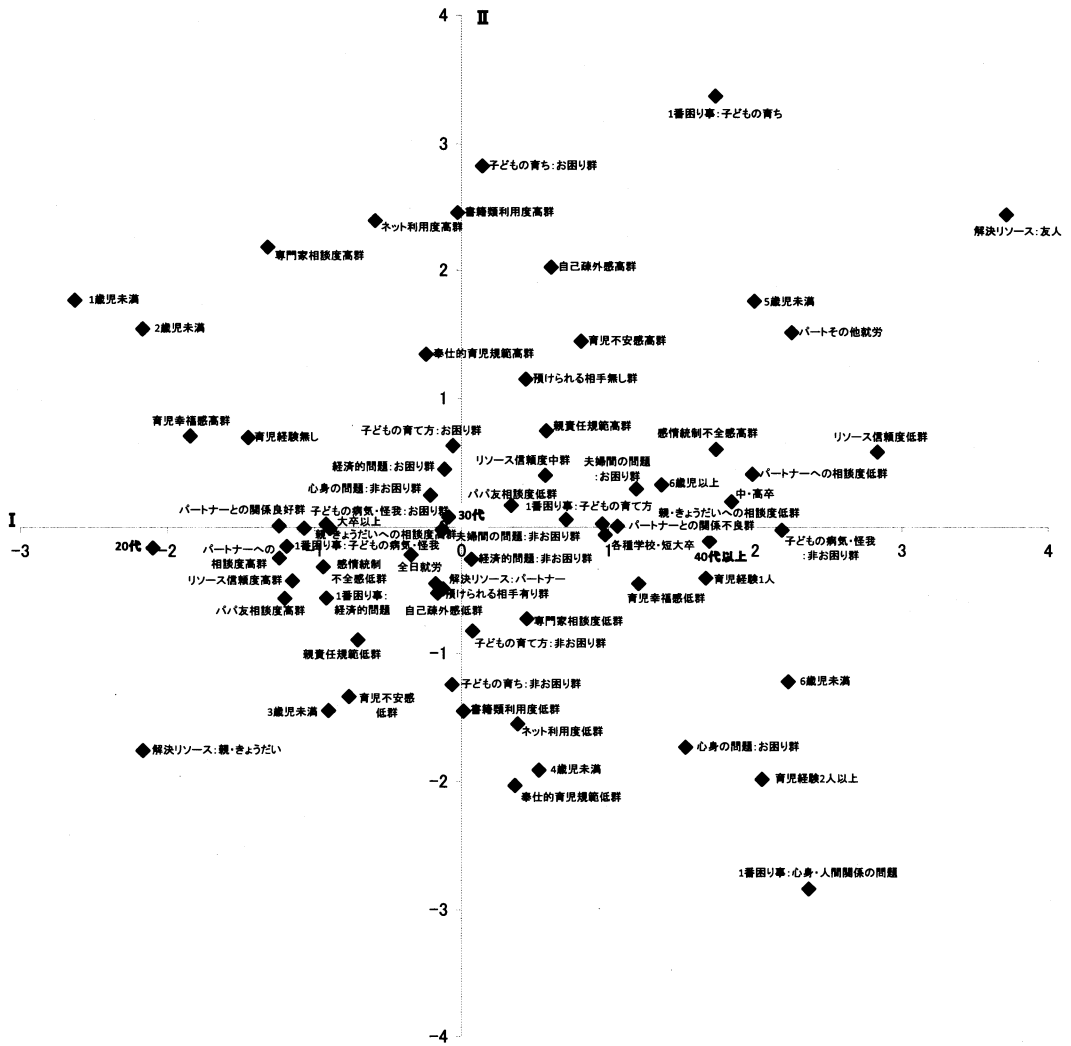


Fig.1 子育てのお困りごとに関する要因カテゴリーの数量化Ⅲ類の結果 (父親: N=91)

のサンプル数)が見られた3)育児のお困りごと: 夫婦間の問題は、分析項目から除外した。

解析の結果、第I軸の固有値は0.13、第II軸の固有値は0.09であった。Fig.2に育児のお困りごとの内容と問題解決リソースに関わる要因カテゴリーの関係を図示した。これより、第I軸を見ると、正方向には「パートナーへの相談度低群」、「1番のお困りごと: 心身の問題」、「育児幸福感低群」、「子どもの病気・怪我: 非お困り群」、「ママ友等の対人関係: お困り群」、「育児不安感高

群」が布置され、負方向には「1番のお困りごと: 子どもの病気・怪我」、「感情統制不全感低群」、「育児不安感低群」、「パートナーへの相談度高群」、「ネット利用度高群」、「書籍類利用度高群」が布置された。

第II軸をみると、正方向には「親・きょうだいへの相談度低群」、「自己疎外感低群」、「1番のお困りごと: 子どもの病気・怪我」、「育児不安感低群」、「ネット利用度低群」、「書籍類利用度低群」、「解決リソース: パートナー」が布置され、

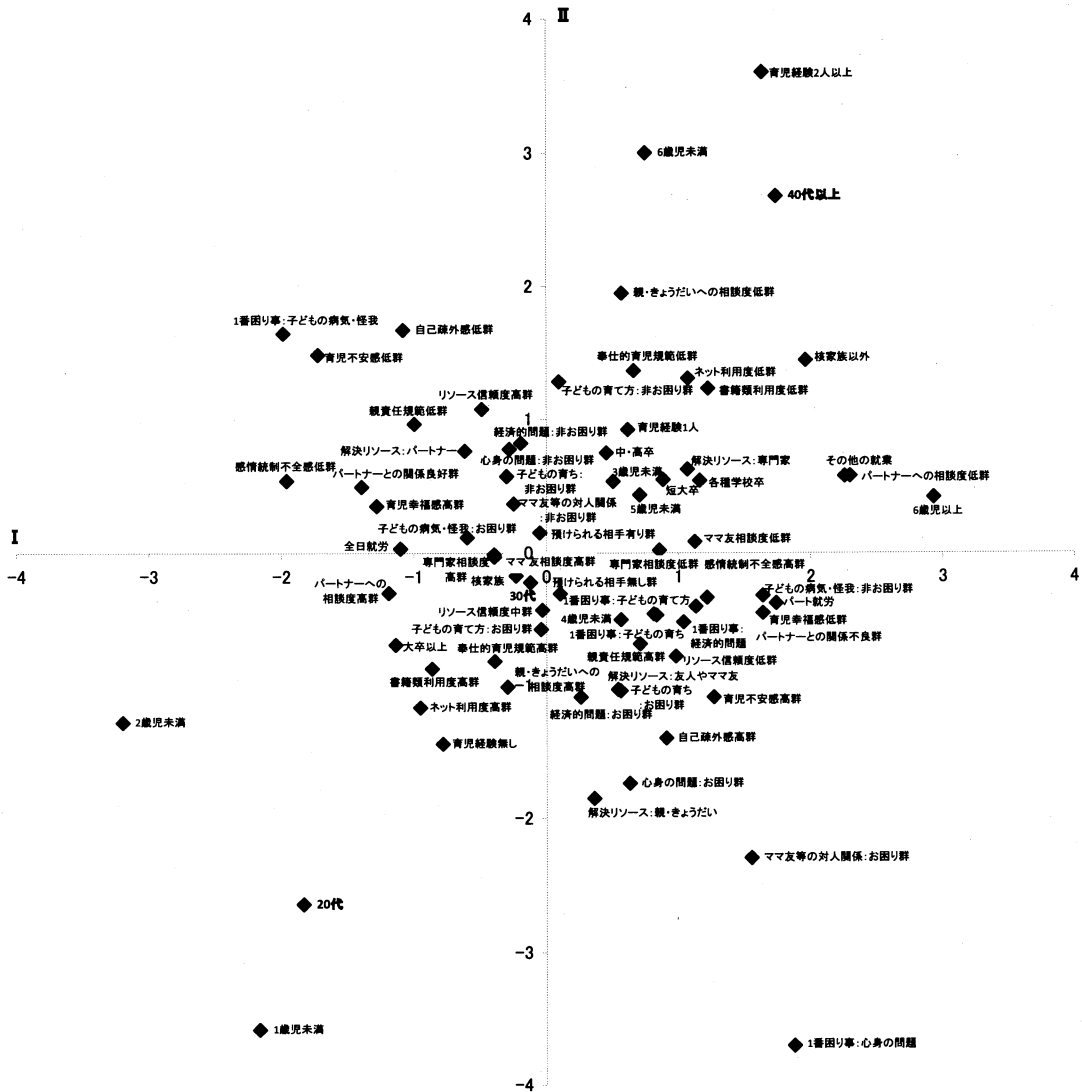


Fig. 2 子育てのお困りごとに関する要因カテゴリーの数量化Ⅲ類の結果 (母親: N=123)

負方向には「1番のお困りごと: 心身の問題」, 「ママ友等の対人関係: お困り群」, 「解決リソース: 親・きょうだい」, 「心身の問題: お困り群」, 「自己疎外感高群」, 「ネット利用度高群」が布置された。

4. 考察

本報告は、父親・母親別に育児に関わるお困りごとの内容と、その問題解決のための対人的・情報的リソースの関係構造を明らかにすることが目的であった。よって、以下では、父親・母親別に数量化Ⅲ類を用いた解析結果について考察してい

く。

(1) 父親における育児のお困りごとの内容と問題解決リソースの関係

Table 1 およびFig. 1の結果より、「子どもの育ち」をお困りごとと感じている父親は、書籍類やネットの利用度が高く、専門家への相談度も高いことが示唆される。子どもの育ちについて、例えば発達の遅れや心配事がある場合、父親は身近な対人的リソースを活用して問題解決を図ろうとするよりも、むしろ専門的な情報や知識が得られるリソースを活用しようとするものと考えられる。一方で、1, 2歳児を持つ育児経験のない20代の父親は、「子どもの病気・怪我」と「経済的問題」を1番のお困りごとと感じているが、パートナーや友人・パパ友、親・きょうだいへの相談度が高く、そうした対人的な問題解決リソースへの信頼度が高いゆえに、育児不安感や感情統制不全感が低く、逆に育児幸福感が高いことが示唆された。

また、育児経験のある高年齢層の父親は、自身の「心身や人間関係の問題」をお困りごとと感じているが、問題解決のための対人的・情動的リソースの信頼度・相談度共に低いことが示唆された。子どもの「育ち」、「育て方」、「病気や怪我」のいずれについてもお困りごととは認知しておらず、さらに“子どものためならどんなことでもしてあげべき”等の「奉仕的育児規範」が低い点も鑑みると、育児に関わる問題を積極的に解決しようとする志向性が乏しく、専ら自分自身のことに関心が強いのかもしれない。あるいはまた、「心身や人間関係の問題」に困っているにも関わらず、本人にとって適切かつ有用な対人的・情動的リソースを見いだせていない可能性も考えられる。お困りごととなっている問題の性質を考慮すると、彼らに対しては、小林(2004)が示唆するように、ウェブサイトによる情報提供と電子メールによる相談システムが有用となる可能性が考えられよう。

(2) 母親における育児のお困りごとの内容と問題解決リソースの関係

母親に関しては、Table 2 およびFig. 2の結果より、1, 2歳児を持つ育児経験のない20代の母親は「子どもの育て方」をお困りごとと感じており、本・雑誌等の書籍類やネットの利用度が高く、親・きょうだいやパートナーへの相談度も高いことが示唆された。“子どものためならどんなことでもしてあげべき”等の「奉仕的育児規範」も高いことから、自分のことを我慢してでも自身の初めての子どものために、あらゆる対人的・情動的リソースを利用して問題解決に当たろうとする姿勢が伺える。この結果に関しては、就学前児を持つ母親ほど問題解決のために情動的リソースを利用する傾向があることを示した石野(2005)の知見とも整合していると言える。ただし、情動的リソースは問題解決に最も役立つものには挙げられていなかったことから考えると、松本(2008)の知見と同様に、利用度の割にはそれほど役立ったと実感されないリソースであるのかもしれない。この点については今後、具体的にどのような書籍類やウェブサイトが利用され、それらの利用がどの程度役立ったか等の効果を検討することが課題であろう。

また、全日就労で「子どもの病気や怪我」を1番のお困りごとと感じている母親の場合、問題解決リソースとしてのパートナーへの信頼度・相談度が高く、パートナーとの関係も良好であるほど、育児幸福感が高く、育児不安感・自己疎外感・感情統制不全感が低いことが示唆された。さらに、高年齢層で育児経験があり、核家族ではない世帯構成の母親ほど育児においてお困りごとと感じる事柄が少なく、それゆえか問題解決のための対人的・情動的リソースの利用度も低いことが示唆された。これについては、育児経験があることによって子どもの育ちや育て方、病気や怪我等に対して鷹揚に構えていられることを指すのか、あるいは子どもが家族メンバーとの関わりの中で育っていくことによって母親だけが育児を抱え込まずに済むことを示唆しているのかもしれない。

そして、自分の「心身の問題」や「ママ友等の

対人関係」をお困りごとと感じている母親においては、育児不安感や自己疎外感が高く、親・きょうだいを解決リソースとして問題に対処しようとしているものと考えられる。また、「子どもの育ち」や「経済的問題」など複数のお困りごとを抱えている場合には、パートナーとの関係が不良であるがゆえに、育児幸福感の低さや感情統制不全感が高くなっていると考えられる。そうした否定的な育児感情が子どもに向けられていないかが懸念される。

以上の知見をふまえ、今後は、育児におけるお困りごととその問題解決リソースが、具体的にどのような子育て・子育てに結びついているのか、そしてまた、大学の専門的な人的・情動的リソースが、育児にお困りごとを抱える父母らに如何なる貢献をなし得るかについて検討していくことが課題であろう。

注記

本論文は日本社会心理学会第50回大会での発表(田中・泊・西河ら, 2009)⁽⁷⁾に加筆修正したものである。

引用文献

- (1) 国立社会保障・人口問題研究所 (2008). 日本の世帯数の将来推計(全国推計)－2008(平成20)年3月推計－
<http://www.ipss.go.jp/> 2010. 1. 10取得
- (2) 厚生労働省 (2003). 厚生労働白書平成15年度版 ぎょうせい
- (3) 石野陽子 (2005). 子どもに対する母親の罪障感と社会的援助資源－子どもの年齢による差異－ コミュニティ心理学研究, 9(2), 164-177.
- (4) 小林真 (2004). インターネットの利用が母親の育児ストレスに及ぼす緩和効果 富山大学教育学部紀要, 58, 85-92.
- (5) 松本昌子 (2008). 育児書など育児情報の利用状況 小児保健研究, 67(3), 525-

530.

- (6) 古田雅明・加藤美智子・田中優・泊真児・西河正行・深津千賀子・福島哲夫・向井敦子・八城薫 (印刷中). 家庭・学校・地域における「子育て」コミュニティ再生に関する実践研究① —調査データの基礎的分析 大妻女子大学人間関係学部 人間関係学研究, 11
- (7) 田中優・泊真児・西河正行・向井敦子・八城薫 (2009). 家庭・学校・地域における「子育て」コミュニティの再生に関する実践研究—子育てにおける問題, 問題の解決方法, および, 育児観について—, 日本社会心理学会第50回大会発表論文集, 836-837

謝辞

本調査に先立ち、インタビューにご協力くださった専門家の先生方に感謝申し上げます。また、調査の取りまとめにご協力くださった保育園のスタッフの方々、並びに、子育てでお忙しい中、調査にご回答くださいました多くの方々に感謝申し上げます。